掴め君の未来を！

令和8年度第7号

慶進中学校・高等学校
進路部
令和8年10月28日発行

共通テスト（以下、共テ）まで残り80日です。3年生は、クラスの雰囲気も受験色が非常に強まってくる頃です。もしかすると、不安や焦りからくるプレッシャーで苦しんでいる人がいるかもしれません。でも「受験は団体戦」という言葉がある通り、第1志望大学合格という同じ目標を持つ多くの仲間がいることを忘れずに。もちろん、保護者の方や慶進の先生も応援しています。自信を持って、勉強をがんばってください。また、そろそろ併願校受験を含めた受験計画を設定する時期になりました。「併願校を考えておこう」という記事を掲載していますので、参考にしてください。2年生は、11月になり、部活動や校外活動などで忙しい人も多いかと思いますが、毎日の学習はきちんとできているでしょうか。高校生活も後半戦を迎え、いよいよ皆さんも「受験生」に変わる時期です。今の時期から志望校合格という目標を設定し、受験を意識した学習に取り組んでいきましょう。1年生は、文理選択の調査が目前に迫ってきました。職業や学問の探究をした上で、入試科目を調べたり、先生や保護者とも相談したりして、納得のいく文理選択を行いましょう。

●大学入試トピックス～全統模試からみる2027年度入試の志望動向

（河合塾「Kei-Net」の記事を基に作成）

第2回全統共通テスト模試の結果からみる2027年度入試の志望動向：模試の受験者は前年比97%となった。文理別に見ると理系が減少している。近年は理系の比率が高まっていたが、今年は目に見えて文系比率が高まっている。大学では理系シフトが進みつつあるが、受験生の志向は合致していない状況。志望校登録状況を見ると、国公立大の志望者数は前年比96%で模試受験者の減少率とほぼ同じ。国公立大離れや、逆に国公立大の人気が高まるといった動向は見られず、昨年と大きく変わらない。一方、私立大では一人あたりの志望校登録数が増えている。この傾向が続けば、入試本番で志願者数の増加につながる可能性がある。

国公立大の動向：国公立大入試の中心である前期日程の志望者数は前年比96%となった。次いで、後期日程が前年比89%、中期日程が同89%となっている。大学グループ別に見ると、旧帝大を中心とした難関10大グループは101%で前年並み。難関大と準難関大を除いたその他の国公立大は同93%で、難関大志向が鮮明となっている。学部系統別の志望動向は、文系では「法・政治」「経済・経営・商」が前年比99%となった。この2系統では成績上位層が増加している。また「法・政治」系では女子志望者の増加も見られた。理系では「理」「工」が全体とほぼ同率となり、「農」は前年比99%となった。理系のこれらの系統では、いずれも女子志望者が増加している。医療系の分野別では「歯」「薬」は前年並みの志望者数だが、その他は減少した。特に「看護」は前年比 90%と大きく落ち込んでいる。

私立大の動向：私立大全体の志望者数は前年比96%と減少したが、都市部の大規模大の人気が高い。難関・準難関大を除く国公立大よりも都市部の私立大を志望する受験生が増加していると想定される。私立大入試で注意したい点は、一般選抜での合格者抑制である。定員超過が基準を超えた場合、助成金の減額などのペナルティが課される。過去4年間で入学者数が超過気味の学部では、在学者数を調整するため合格者を抑制する可能性がある。

●小論文と面接の直前対策（総合型・学校推薦型選抜）

（「大学受験パスナビ；旺文社」の記事を基に作成）

① 小論文の直前対策

小論文は添削に足を運んだ数だけ力になる

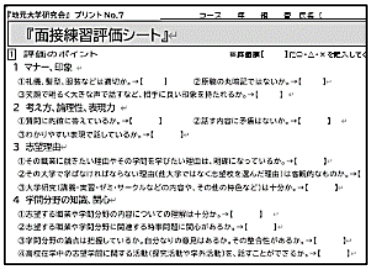
小論文を書く上で大切なことは、①**課題文を読み取る力**をつけること、②**志望する分野に関する知識**を深めること、③繰り返し**添削指導**を受けることの3つです。これらの対策を進める中で、要約する力、自己の考えに具体性を持たせる知識、説得力のある論述や適切な文章表現が身につくはずです。後は、志望する分野に関する記事や資料を整理し、入試直前まで使えるファイルを仕上げましょう。その時自分ならどう問題をとらえるか、自問しながら整理すると今までの復習になります。知識を深めるには、1つのテーマを複数の視点から記述している対論型の本を参照するのがオススメです。

不安な人は、直前まで先生に添削指導をしてもらいましょう。小論文の添削指導では、文章のつながりや表現、設問に沿った論理展開、根拠や具体例に説得力を持たせる方法など、多くの改善するポイントを先生に指摘してもらえます。何度も添削指導を受けることで、合格水準に達する小論文に改善していきましょう。また、論述や表現などのスキルだけでなく、指導の合間に話してくれる話題が緊張を解き、思考の幅を広げてくれます。

② 面接の直前対策

面接の流れを意識しつつ志望の熱意を伝えよう

面接には個人面接、集団面接、集団討論があります。共通していることは、明確な目標を持ち、入学後に大学で力を発揮できる受験生を大学が求めていることです。そのため、面接で大切なのは次の3つです。1つ目は、**志望の熱意を伝える**こと。自分の経験に基づく志望理由や、目的を実現するために最適な環境であることを具体的に伝えます。2つ目は、**面接の流れを捉える**ことです。個人面接では、面接官の質問の意図を外さないよう注意しましょう。集団討論では、全体の流れの中で自分の意見だけでなく、相手の意見を聞き入れながら結論を導き出す協調性が求められていることを忘れずに。3つ目は、**模擬面接を繰り返す**ことです。予想される質問は、質疑応答用のファイルに整理して学校の先生の添削指導を受け、ブラッシュアップさせましょう。面接練習を動画で撮影すると、態度や表情の確認ができます。自信が持てれば、集団面接でも周囲の緊張感に負けません。


『面接練習評価シート』

（面接練習評価シート）

●先輩の合格体験記　昨年度、一般選抜で合格した先輩の体験記を一部抜粋して掲載しています。

九州大学法学部
（中高一貫コース卒業）

【後輩へのメッセージ】
自分の志望校は最後まで諦めないように！　その方が後悔はありません。先生にどんどん頼っていきましょう！

【勉強のやり方について】
国語：単語や句形、語彙の知識を増やしました。問題の解き方は、古川先生と河村先生の授業で教わったことを実践しました。
英語：とにかく単語を覚えました。授業や模試で分からなかった単語は全てメモし、復習しました。リスニングは1日1分でも良いので、毎日英語を聞くことが大事です。リーディングは BBC や CNN などのニュースを読んでいました。

【共通テストに向けた対策】
二次試験の勉強に重きを置いたので、共テ対策は学校で終らせるようにしました。定期試験や長期休暇の課題をきちんとやれば、模試でも7割を切ることは無いです。

山口大学工学部
（アドバンスコース卒業）

【後輩へのメッセージ】
私は11月まで推薦対策で化学の勉強が中心でしたが、そこから切り替えて共テの勉強に集中することで、共テは過去最高の点数をとることができました。時間が無くても諦めず、最後までがんばってください。

【勉強のやり方について】
国語：共テは消去法で解けるものが多いので、多く問題を解いて練習する。
数学：演習量が成績に直結するので、公式を覚えてひたすら問題を解く。分からない問題の類似問題を解いて、使い方を覚える。
化学：現象は説明できるものは、自分なりに説明できるようにする。流れで覚える。

【共通テストに向けた対策】
得意な教科は毎日30分触れておいて、苦手な教科は1日1科目として、苦手を徹底的に無くす。共テ本番は、「自分ならできる」と自己暗示をかけて気持ちを落ち着かせました。

山口東京理科大学工学部
（グローバルコース卒業）

【勉強のやり方について】
国語：理系でも、共テの国語で高得点が取れると大きいので早めに取り掛かる。特に古文、漢文は比較的早く伸びるので重点的にする。漢文は句法を覚えると、ある程度読めるようになる。
数学：難しい問題を最初にしないで基礎的な問題を確実に取れるようにする。共テはⅠA、ⅡBCだけなので、夏までに数Ⅲを仕上げると、二次試験ですごく楽になる。
英語：まずは単語、熟語をひたすら覚えて土台を作る。文法をある程度覚えたら、一文一文を訳せるようにする。いっぱい長文を読んで速読できるようにする。

【共通テストに向けた対策】
部活を秋までしていて、他より遅れをとったのですが、理系科目を早めに仕上げておいたので、共テ直前は、成績が伸びやすい暗記科目の勉強に集中できました。

●共通テスト模試受験のすすめ

第3回進駿模試が終わると、3年生の校内模試はもうありません。これから、各予備校が実施する「共通テスト直前模試」に申し込んでみましょう。共通テストの点数を飛躍的に伸ばすために、色々な予想問題に当たっておくことは大事です。また、外部の試験会場の独特の雰囲気は、校内模試では経験できないものであり、外部受験の経験のない人は是非一度経験しておきましょう。特に、北予備の「共通テストファイナル」は、毎年、大半の3年生が受験します。



●併願校を考えておこう

（河合塾「Kei-Net」の記事から抜粋して作成）

第1志望校が決まり、目標に向かって頑張っている頃だと思いますが、併願校の検討はできていますか？　Kei-Net 特派員にアンケートを実施したところ、3～5 校受験したという特派員が全体の約半数でした。第1志望校より先に併願校を受験することで、入試独特の緊張感に慣れておくことができますし、1校でも「合格」を手にすることで気持ちに余裕がうまれ、落ち着いて第1志望校の入試を迎えることができます。このように、「保険」という意味だけでなく、第1志望校の入試で十分に実力を発揮するためにも、併願校はしっかり検討しておく必要があります。併願校を絞り込み、効果的な併願プランで、第1希望合格をつかみましょう。

Keyword 1　難易度：

「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」という言葉がありますが、大学入試においてこの言葉は通用しません。入試の出題傾向は大学ごとに異なるため、大学別に対策を行う必要があります。さらに受験には体力も費用もかかります。受験校数はある程度絞り、一つひとつの入試に全力を注げるようにしましょう。その際に目安となるのが、“ダイヤモンド受験”です。チャレンジ校 1～2 校、実力相応校 2～3 校、安全校 1～2 校、計 4～6 校を目安に検討してみましょう。

Keyword 2　入試科目配点：

大学受験で大切なことは、目標を見失わないことです。今まで行ってきた受験勉強はすべて、第1志望校に合格するための努力です。入試科目が第 1 志望校と大きく異なると、併願校の対策に時間を取られ、第1志望校の対策に支障をきたしかねません。併願校には第1志望校の入試科目を利用して受験できる大学・入試方式を検討しましょう。私立大学では、共通テストの成績を利用できる「共通テスト利用方式」や一度の受験で複数の学科に出願できる方式などさまざまな入試制度があります。その中からもっとも自分にあうものを選びましょう。科目をそろえて負担は小さく、得意科目の配点は高く、受験料はなるべく抑える。“賢い”受験が第 1 志望校合格につながります！

●「アドバンスコーザ」活動報告

アドバンスコースでは学期に1回のペースで（年3回）、「アドバンスコーザ」と称する進路講演会を実施しています。この行事では、さまざまな分野の第一線で活躍されている方をお招きし、仕事や研究の内容、社会人として求められる資質の他、ご自身の高校・大学時代の体験談についてお話しいただくことで、生徒自らの志を高める契機としています。　（第37回アドバンスコーザの様子→）



11月のスケジュール

8日（日）　第2回実用英語技能検定（二次）
11日（水）　山口大学医学部教授出前講義
17日（火）　期末試験日割発表
21日（土）　卒業生医師による講演
24日（火）～12月1日（火）　期末試験